

<榎野川まるごと体験学習会（榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト）>

平成 24 年 9 月 29 日に榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会の主催で、『榎野川まるごと体験学習会』が、小郡ふれあいセンターで開催されました。学習会は、一般募集 32 名参加により、榎野川流域における様々な活動の説明や流域に自生する草木を染料として草木染めハンカチを作成しました。午後からは、榎野川活性化交流会 28 名が合流し、計 60 名の参加者で、アユの産卵を促すため、川底の石を均一に敷き詰める等の産卵場の整備が行われ、大人も子供もみなさん楽しんで学ぶことができました。



学習会の様子



草木染体験



アユの産卵場整備

<第 15 回自然再生協議会>

第 15 回目の委員会を、平成 25 年 1 月 27 日（日）、山口県セミナーパークで開催し、32 名の参加がありました。会議では、平成 24 年度の活動報告やアンケート結果の報告等を行い、また、榎野川河口干潟の自然再生に係るワークショップを開催し、今後の自然再生活動について、委員の皆様で積極的な意見交換が行われました。

今後は、アンケートやワークショップで得られた意見を踏まえ、順応的に自然再生の取り組みを進めていく予定です。



会議の様子



ワークショップの様子



ワークショップでつながる絆

アンケート結果

平成 24 年度は、同協議会が平成 17 年 3 月に策定した榎野川河口域・干潟自然再生全体構想に掲げた目標（目指す状態）及び取組について統括するため、アンケートを実施しました。主な活動に対するアンケート結果のまとめは下表のとおりです。

再生キーワード	目標達成度 (一部達成含む)	まとめ
砂干潟再生（南潟）	42% (69%)	●アサリの再生について漁業活動と再生活動の両立が必要→漁業としてのなりわいと、環境学習、住民参加との調整必要。
泥干潟再生（中潟）	21% (55%)	●現在活動してないので分からない→誰が、何をやっていくのか、今後の利活用、実施方法の検討必要。
カブトガニの保全	54% (62%)	●継続したモニタリングが必要→調査研究成果の活用方法の検討必要。
アマモ場の再生	49% (72%)	●継続したモニタリングが必要→魚類等の生物の生息状況の確認必要。
その他の意見	—	●今後の再生活動の継続・拡大及び新たな要望を踏まえ、個々の検討が必要。

※ 資料の公開方法  
協議会で公開された資料及び議事要旨等については、榎野川河口域・干潟自然再生協議会のホームページ（<http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/fushino/index.html>）で公開しています。  
※ ご意見・ご質問等の問い合わせは、事務局（山口県環境生活部自然保護課）に電話、FAX、メールでご連絡ください。  
TEL 083-933-3060、FAX 083-933-3069、E-mail a15600@pref.yamaguchi.lg.jp  
制作・発行：環境省 中国四国地方環境事務所 ホームページ（<http://chushikoku.env.go.jp/>）

# 榎野川河口域・干潟自然再生協議会 ニュースレター

No.9

発行日：平成 25 年 3 月  
事務局：榎野川河口域・干潟自然再生協議会

このニュースレターは、榎野川河口域・干潟自然再生協議会で話し合った内容や自然再生の取組の状況などをお知らせするものです。平成 24 年度の取組状況は以下のとおりです。

実施日	内 容
4月 6日	干潟モニタリング（南潟）：目視調査（以降実施）
4月 18日	山口湾の干潟を守る会（藻場・干潟保全活動支援事業）アサリ（間引き）、被覆網の管理、モニタリング等（以降適宜実施）
5月 5日	榎野川河口域・干潟自然再生協議会（第 1 回：通算 14 回）住民参加による干潟耕耘（耕耘、被覆網設置）、干潟観察会（南潟）（榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト）
6月 8日	ナルトビエイ駆除/榎野川河口（6月～9月まで6回実施）
6月 10日	榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会 四季の森整備（榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト）
8月 29日	カブトガニ幼生生息調査：南潟（自然再生協議会：カブトガニワーキンググループ）
9月 2日	カブトガニ幼生生息調査：長浜（自然再生協議会：カブトガニワーキンググループ）
9月 29日	榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会 榎野川まるごと体験学習会（榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト）
10月 13、14日	やまぐちいきいきエコフェア（榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクトの紹介）
11月 29、30日	平成 24 年度自然再生協議会情報連絡会議（埼玉県）
1月 27日	榎野川河口域・干潟自然再生協議会（第 2 回：通算 15 回）
3月 15日	やまぐちの豊かな流域づくり推進委員会・榎野川河口干潟再生小委員会合同会議

<第 14 回自然再生協議会>

「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」の第 14 回目の委員会を 5 月 5 日（土）、山口県漁協山口きらら支所で開催しました。当日の参加者数は 34 名（構成委員 56 名）でした。今回は、委員の任期が 3 月末で終了していることから、まず第 5 期委員が選任され、これにより第 5 期委員は 57 名でスタートすることになりました。また、会長及び会長代理の選任については、会長に中西委員、会長代理に浮田委員がそれぞれ選任されました。次に、平成 24 年度の活動スケジュール等について、説明、質疑等が行われました。協議会終了後、『榎野川の幸を味わう試食会』として、榎野川河口域（南潟）で育ったアサリのみそ汁、山菜や稚アユの天ぷらが振る舞われ、干潟耕耘前においしい料理をいただきました。



協議会の様子



アサリのみそ汁



試食会の様子

<南潟 干潟再生活動>

平成 24 年度は、5 月 5 日に地域住民のみならず、クワやスコップを利用して人力で約 5,000 m<sup>2</sup>の干潟を耕耘、アサリを食害生物から守るための被覆網の設置等を行いました。平成 17 年度から始まった再生活動により、アサリが回復し始め、平成 21 年には食べられる程の大きさのアサリが漁獲できるまでになりました。現在、アサリ漁場を拡大する活動を行っていますが、被覆網の種類や設置場所等によっては、アサリの発生が悪いこと等の問題点もみえてきました。今後とも、アサリ資源の増産を目指し、順応的に再生活動を進めていく予定です。



榎野川河口域南潟

干潟再生活動の様子

干潟再生活動は、恒例の耕耘作業の他に、アサリ資源を守るための母貝団地の設置やアサリレスキュー（間引き）を行いました。

また、干潟再生活動に参加した子供達を対象に干潟観察会を行いました。カブトガニ、ミドリシャミセンガイ等の希少な生物を含め、約 20 種類程度の生物が観察され、干潟を身近に感じてもらうことができました。

干潟再生活動は、榎野川河口域・干潟自然再生協議会委員や地域住民のみならず総勢 228 名で行いました。



耕耘作業の様子



母貝団地の設置



アサリレスキュー



観察会の様子



集合写真

<山口湾の干潟を守る会（藻場・干潟保全活動支援事業）>

山口県漁協山口きらら支所と榎野川漁協の組合員を中心に構成された「山口湾の干潟を守る会」では、21 年度から始まった藻場・干潟保全活動支援事業により、干潟の保全活動を行う組織として、昨年度に引き続き、アサリ管理（被覆網の設置、交換）とナルトビエイ駆除（6～9 月までの計 6 回で合計 53 尾）の干潟保全活動に取り組みました。



被覆網の設置の様子



ナルトビエイの駆除活動の様子

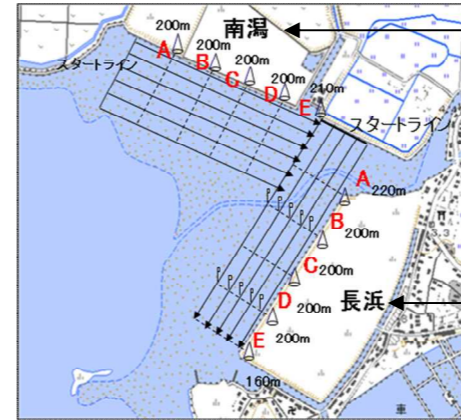


捕獲されたナルトビエイ

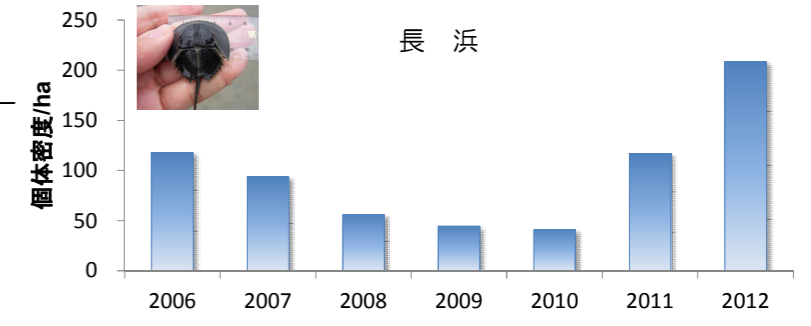
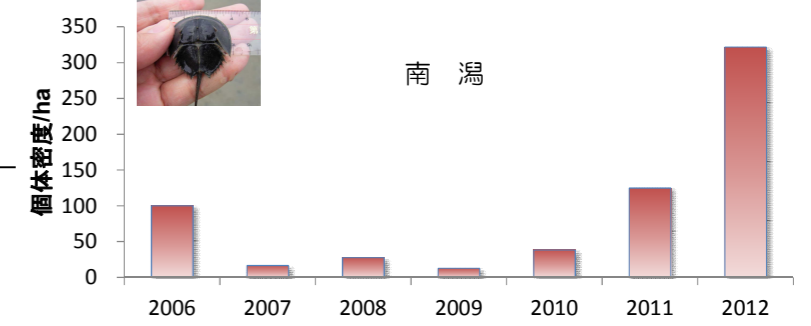
<カブトガニワーキンググループの取組>

山口湾のカブトガニ産卵場、生息場の保全を図るため、カブトガニワーキンググループ（原田直宏グループリーダー）を中心に、平成 18 年度から継続して取り組んでいます。平成 24 年度は、8 月 29 日に南潟で県職員、インターシップ学生等計 13 名、9 月 2 日に長浜でボランティア等計 48 名によるカブトガニ幼生の生息状況を把握するための調査を行いました。その結果、発見された幼生は長浜 985 個体、南潟 325 個体の計 1310 個体で、調査を開始以降、最大の個体数が分布していました。

カブトガニワーキンググループでは、このような参加型の幼生調査以外にも、護岸付近の砂浜に産卵されるカブトガニの卵塊調査も実施しており、今後もカブトガニ保全のため継続して実施していくこととしています。



幼生調査範囲（ベルトトランセクト調査）



カブトガニ幼生密度の推移



事前説明



幼生調査の様子



卵塊調査の様子

<四季の森の整備（榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト）>

四季の森は、榎野川上流の山口市仁保上郷に位置し、森・川・海が連携した自然再生を考える上で重要な地域です。これまで、榎野川の源流を守る運動の発祥の地として、森林の整備が地元自治会を中心に行われてきました。平成 24 年度は、地元仁保自治会 52 名を始め、大学生、県職員、インターネット申込み者 30 名の参加により、6 月 10 日に植樹面積約 4ha の草刈り作業が行われました。その後、一般参加の方へ、榎野川の源流を守る会の岡事務局長、吉光副会長から、四季の森の森・川・海のつながりについて説明され、みなさん関心を持って聞かれました。



作業の様子



説明の様子